復興庁
Reconstruction Agency

令和3年3月25日発行
宮城復興局気仙沼支所
気仙沼市笹が陣3－5
気仙沼市シルバー人材センター内

つちおと

第83号

3/11(木) 気仙沼市震災復興祈念公園が開園
～ 祈りを届ける，想いを伝える ～

３月１１日、気仙沼市内にて、東日本大震災で犠牲となられた方々を悼み、震災の記憶を後世に伝える場として、震災復興祈念公園が開園しました。公園内には、帆−セイル−の形をした高さ10メートルのモニュメントが復興祈念の象徴として設置され、内部から望む水平線に向かい、祈りを捧げることができます。また、震災により犠牲になられた方々のご芳名を生前にお住まいだった方角に向けて並べた犠牲者銘板、震災の記憶を想起させ語り継ぐための彫刻が作られました。また、同公園には史跡が現存し、希少な植物が自生するなど公園自体も楽しめる自然公園となっており、６日に開通した三陸沿岸道路の気仙沼湾横断橋（かなえおおはし）と合わせ、市内外から人々を引き寄せる気仙沼のシンボルとなることが期待されます。開園式には平沢復興大臣の代理として宮城復興局長が出席致しました。

3/6(土) 三陸沿岸道路 県内全線開通
～気仙沼湾でつながる絆と復興～

３月６日、三陸沿岸道路のうち「気仙沼湾横断橋」（全長1,344m）を含む「気仙沼港IC～唐桑半島IC」間（7.3km）の開通式典が行われました。開通式は新型コロナウイルス感染症に配慮して開催され、村井宮城県知事、菅原気仙沼市長、小野寺五典衆議院議員、そして復興庁からは英宮城復興局長と、国・県・市等の関係者が参列し開通を祝いました。今回の開通により宮城県内の三陸沿岸道路が全線開通となり、震災前と比べ、仙台市から岩手県宮古市への所要時間は約2時間短縮されました。さらには、物流効率化や交流圏の拡大、救急医療体制の強化のほか防災機能の拡充など多方面に効果が期待されており、この三陸沿岸のシンボルとなる横断橋や、三陸沿岸道路の最大限の活用が望まれます。

2/22(月) 新しい東北 交流会
～広げよう、東北の力～

２月２２日、復興庁の主催する「新しい東北」交流会が開催され、復興・創生顕彰の顕彰式や復興ビジネスコンテストの表彰式、活動紹介などが一部オンラインを活用し、仙台市内にて行われました。

復興・創生顕彰：復興みなさん会（左から5人目）、鹿折まちづくり協議会（左から6人目）

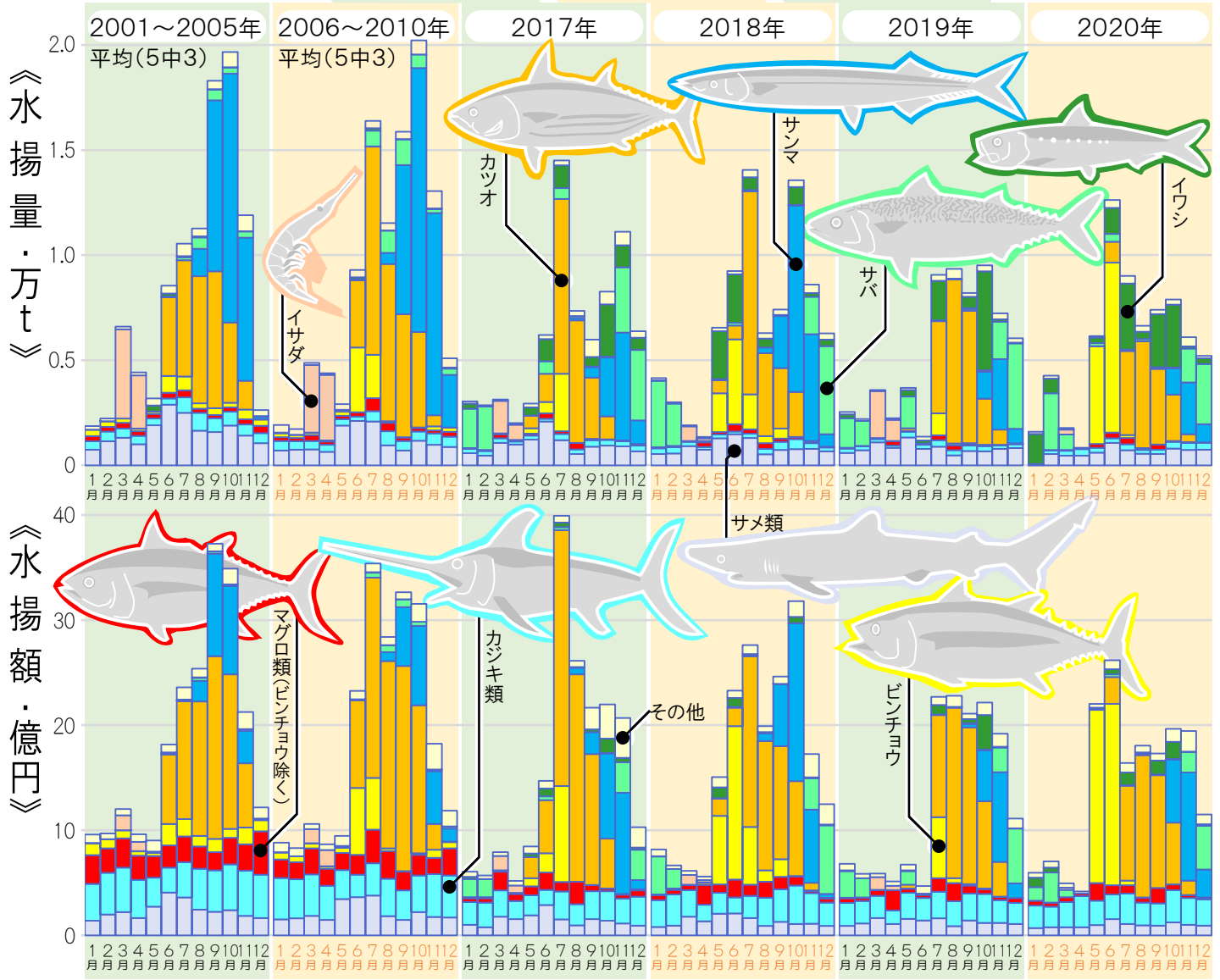
気仙沼市・南三陸町管内では、復興・創生顕彰にて、コミュニティ再生を支援してきた「一般社団法人復興みなさん会（南三陸町）」と地域づくりの旗振りを担っている「鹿折まちづくり協議会（気仙沼市）」が、平沢復興大臣から賞状・盾が授与されました。同顕彰は、被災地の課題解決に挑戦する個人や団体のうち、特に大きな貢献をされている方を顕彰するもので、平沢大臣からは、受賞された方々へ今後のさらなる活躍への期待が述べられました。

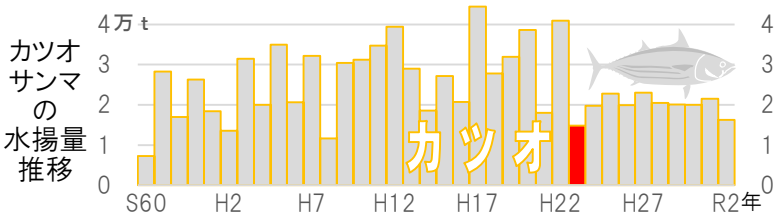
復興ビジネスコンテストにおいては、気仙沼市の株式会社 菅原工業が優秀賞と仙台銀行じもと復興創生応援賞をダブル受賞しました。コンテストは、東日本大震災の被災地における地域産業の復興や地域振興にかかわる取り組み・アイデアを発表するものです。同社は、震災以降、インドネシア技能実習生の居場所づくりのため、同国料理店の開店・運営や祈祷所の建立を行い、さらに帰国後の就業場所としてインドネシアにリサイクルアスファルトプラントをつくりました。「地域の当たり前の日常を提供し、世界と繋がる地域と企業の未来の道づくり」をテーマとする同社の取組は、今後の事業展開により地元の復興・創生に益々プラスの効果をもたらすものと期待されています。

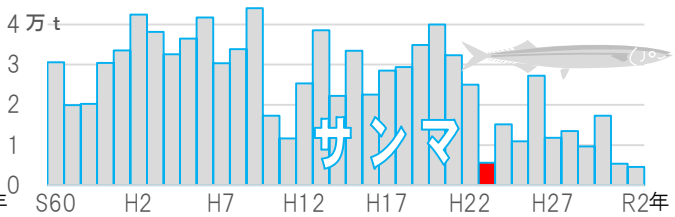
復興ビジネスコンテスト：菅原工業（中央から右二人目）

気 仙 沼

気仙沼市魚市場の水揚げを東日本大震災前について5年ごとにみると、水揚げの少なくなる冬期を含めて周年カジキ類やサメ類、マグロ類等に支えられながら、春先にイサダがまとまり、6月頃にカツオが近づき、それに先立ちビンチョウが揚げられ、カツオが中盤となる8月頃からサンマへ移行していきます。特にカツオやサンマは、変動を繰り返しながらも多い時には4万トン前後が水揚げされ気仙沼を盛り上げてきました。近年の水揚げはこれまでと違う状況が続いています。他魚種の導入を進めるとともに、着実な復興のためにも以前の気仙沼らしい水揚げが待たれます。







3/28(日) 道の駅「大谷海岸」オープン ～ 気仙沼の魅力が全開 ～

日本一海水浴場に近い駅だったJR気仙沼線・大谷海岸駅と一体となった道の駅・大谷海岸（はまなすステーション）は、1996年の登録以来、地元内外から多くの人々が訪れていましたが、東日本大震災により被災し、仮設店舗での再開となっていました。その道の駅が3月28日にリニューアルオープンします。道の駅周辺地域では、大谷海岸復旧事業として防潮堤が国道45号と一体的に整備され、その国道背後地は市のまちづくり事業により道の駅と合せてコミュニティー広場とするため駐車場が整備され観光交流拠点となり、災害時は防災拠点として活用される計画です。道の駅では「オール気仙沼」をテーマに気仙沼産の多くの食材や物産品など魅力を伝える商品が揃えられます。館内では新鮮な海鮮類等の料理を楽しめ、また屋上デッキからは大谷海岸の海を眺めることができます。地域の産業振興・交流人口の拡大に期待される拠点がいよいよオープンです。

◆支所長コラム

３月１１日、東日本大震災の発災から１０年目の節目の日を迎えました。東日本大震災というこれまで経験したことのない大災害から１０年、被災自治体、NPO、ボランティア、企業等多くの人たちが努力を積み重ね、気仙沼市、南三陸町をはじめとする沿岸地域は復興の総仕上げの段階に入りました。１０年目を迎える前に復興のリーディングプロジェクトとして順次整備された復興道路「三陸沿岸道路」が宮城県内全線開通されるなど復興まちづくりの基礎となる公共インフラは整いつつあり、今後は被災沿岸地域の課題である人口減少や産業活動の低迷等に対し、整備した施設を最大限活用した活力あるまち・地域づくりに持続的に取り組んでいく必要があると思います。また、発災から１０年という長い年月や、震災前に近づいた日常生活などにより、当時の記憶の風化が自分自身進んでいると感じました。２月深夜に宮城県内最大震度６強の地震が発生し、県南部に居た私は妻と二人、もの凄い揺れに耐え、大震災の再来か、津波が来ると恐怖を感じました。幸い津波の心配はなかったものの、「忘れないで」とのメッセージを受け取った気持ちになりました。復興庁設置法の改正により、復興庁の設置期間が令和１３年３月末まで延長となり、気仙沼支所も引き続き、気仙沼市、南三陸町の復興支援として残された事業に全力で取り組んでいく必要があり、私自身も発災当時を忘れずにこれまでの経験を糧に引き続き地域の課題解決、支援に取り組んでいきたいと思います。（高信）

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

⇒ https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat6/sub-cat6-1/001177.html

【編集後記】気仙沼らしい街、南三陸町らしい街がまさに再生を果たす貴重な瞬間の“つちおと”に立ち会わせていただきました。そのつちおとが全て、人々の営みのおとにかわる時は近いと信じます。

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）
復興庁 宮城復興局　気仙沼支所
電話：0226-23-5301，FAX：0226-23-5310